１　平成２１年７月の消費者物価指数等

- ○　広島市総合指数（100.7）は前月比で下落（▲0.5）。前年同月比は４か月連続で下落し，下落幅（▲1.9）は比較可能な昭和４５年以降で最大となった。
- ○　生鮮食品を除く総合指数（100.9）は前月比で下落（▲0.3）。前年同月比は４か月連続で下落し，下落幅（▲1.9）は比較可能な昭和４５年以降で，前月に引き続き過去最大となった。
- ○　食料（酒類を除く）及びエネルギーを除く総合指数（98.9）は前月比で下落（▲0.4）。前年同月比は４か月連続で下落。

２　総合指数，生鮮食品を除く総合指数，食料（酒類を除く）及びエネルギーを除く総合指数

	指　数	前月比（%）	前年同月比（%）
総　合　指　数	100.7	▲0.5	▲1.9
生鮮食品を除く総合指数	100.9	▲0.3	▲1.9
食料（酒類を除く）及びエネルギーを除く総合指数	98.9	▲0.4	▲0.8

３　前月からの動き

～主に交通・通信，教養娯楽が上昇。被服及び履物，食料，光熱・水道は下落。～

（１）１０大費目の動き

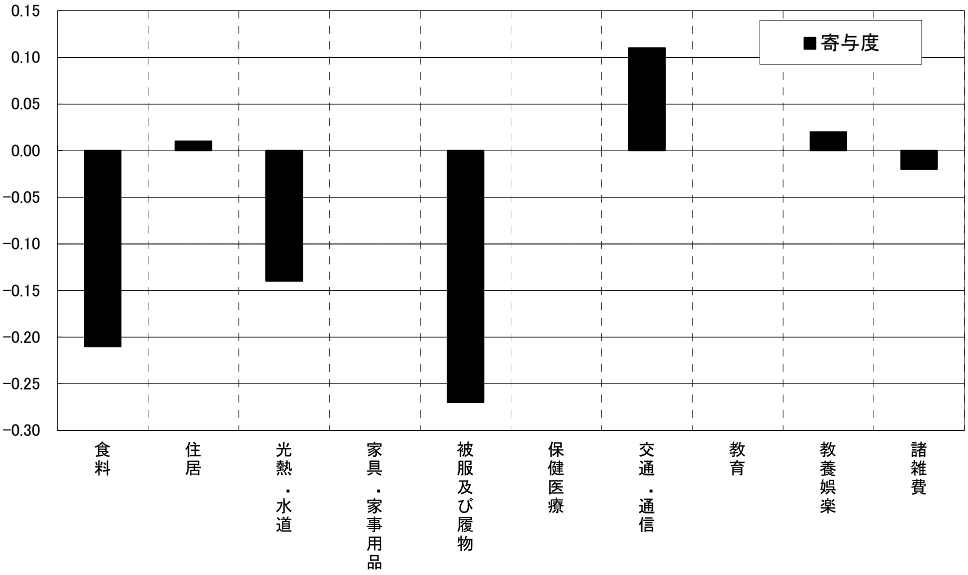
	総合	食料	住居	光熱・水道	家具・家事用品	被服及び履物	保健医療	交通・通信	教育	教養娯楽	諸雑費
指　数	100.7	104.2	100.3	104.5	88.2	102.1	97.8	98.4	106.0	95.2	101.8
前月比（%）	▲ 0.5	▲ 0.9	0.1	▲ 2.0	▲ 0.1	▲ 5.0	▲ 0.1	0.8	0.0	0.2	▲ 0.3
寄与度	▲ 0.51	▲ 0.21	0.01	▲ 0.14	0.00	▲ 0.27	0.00	0.11	0.00	0.02	▲ 0.02

（参考）主な要因となっている１０大費目について，寄与の大きかった中分類項目

被服及び履物　：洋　服（前月比　▲7.1%，寄与度▲0.17）等

食　　　料　：野菜・海藻（前月比　▲3.5%，寄与度▲0.09）等

図１　１０大費目別前月比寄与度



（注）　寄与度：物価全体（総合）の上昇（下落）に，各費目がどれだけ影響したかを示したもの。本来，寄与度の合計は，総合指数の前（年同）月に対する変化率となるが，四捨五入の関係で一致しない場合がある。

（２）総合指数に対する寄与の大きかった中分類項目（寄与度順）

上昇		下落	
項　目　（主な品目名）	前月比	項　目　（主な品目名）	前月比
自動車等関係費　（ガソリン　等）	1.2%	洋服　（婦人スーツ［春夏物］　等）	▲7.1%
教養娯楽サービス（外国パック旅行　等）	0.8%	ガス代（都市ガス代　等）	▲5.9%
調理食品（冷凍調理コロッケ　等）	1.3%	野菜・海藻（えだまめ　等）	▲3.5%
交通　（ＪＲ在来線［料金］　等）	0.9%	果物　（さくらんぼ　等）	▲9.7%
油脂・調味料（風味調味料　等）	1.5%	シャツ･セーター類　（婦人Ｔシャツ［半袖］　等）	▲6.8%

（参考）寄与の大きかった品目（上位２位）

上昇：ガソリン，外国パック旅行　等

下落：都市ガス代，婦人スーツ［春夏物］　等

４　前年同月からの動き
～交通・通信，光熱・水道が主な下落要因で，４か月連続の下落。～

（１）１０大費目の動き

	総合	食料	住居	光熱・水道	家具・家事用品	被服及び履物	保健医療	交通・通信	教育	教養娯楽	諸雑費
前年同月比（%）	▲ 1.9	▲ 0.1	▲ 0.3	▲ 7.0	▲ 5.0	1.5	▲ 1.3	▲ 7.1	0.9	▲ 2.5	▲ 0.2
寄与度	▲ 1.97	▲ 0.01	▲ 0.04	▲ 0.50	▲ 0.16	0.08	▲ 0.05	▲ 1.04	0.04	▲ 0.26	▲ 0.02

（参考）主な要因となっている１０大費目について，寄与の大きかった中分類項目

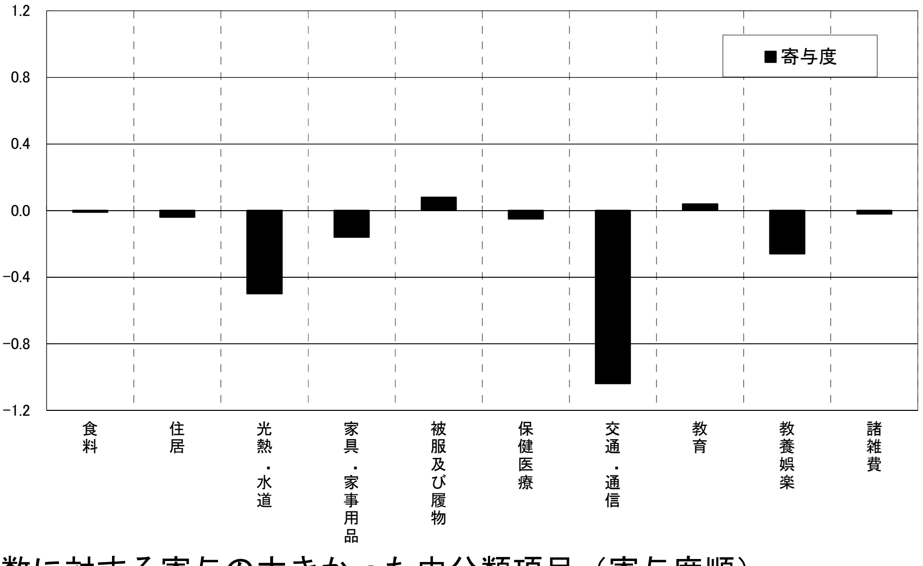
交通・通信　：自動車等関係費（前年同月比▲11.7%，寄与度▲0.96）等

光熱水道　：ガス代（前年同月比▲9.9%，寄与度▲0.22）

他の光熱（前年同月比▲42.3%，寄与度▲0.21）等

教養娯楽　：教養娯楽用耐久財（前年同月比▲25.3%，寄与度▲0.13）等

図２　１０大費目別前年同月比寄与度



（２）総合指数に対する寄与の大きかった中分類項目（寄与度順）

上昇		下落	
費　目　（主な品目名）	前年同月比	費　目　（主な品目名）	前年同月比
調理食品　（冷凍調理コロッケ　等）	3.0%	自動車等関係費　（ガソリン 等）	▲11.7%
洋服（女児スカート［夏物］　等）	4.3%	ガス代（都市ガス代　等）	▲9.9%
菓子類　（キャンデー 等）	2.4%	他の光熱　（灯油）	▲42.3%
外食（カレーライス 等）	0.8%	教養娯楽用耐久財　（テレビ［薄型］等）	▲25.3%
保健医療サービス（出産入院料［公立］）	1.2%	教養娯楽サービス　（外国パック旅行　等）	▲2.0%

（参考）寄与の大きかった品目（上位２位）

上昇：トレーニングパンツ，冷凍調理コロッケ　等

下落：ガソリン，都市ガス代　等

今月の話題　～景気と物価の関係について～

平成 20 年以降は景気とは乖離

消費者物価指数は経済活動が活発かどうかを反映する傾向があるため「経済の体温計」とも呼ばれています。

それを確認するため，図１で「広島市の消費者物価指数」と企業が仕入れる価格の水準を示す「企業物価指数（全国）」，景況感を示す「日銀短観（業況判断 DI，広島県）」をそれぞれ比較しました。

また，購買力の変動をみるため，図２で「広島市の消費者物価指数」と「きまって支給する給与指数（広島県・５人以上，毎月勤労統計調査から）」，「日銀短観（DI，広島県）」を比較しました。

日銀短観　業況判断 DI とは

DI とはディフェージョンインデックス(Diffusion Index)の略で，日本銀行が企業経営者に対して景況感の良し悪しを聞き取り，良いと答えた数から悪いと答えた数を引いたもので，企業の景況感を示す指数として広く利用されています。

プラスであれば景気は回復局面，マイナスであれば景気後退局面と認識している経営者が多いことになります。

図１　平成２年以降平成４年中頃までの景気の拡大局面では，消費者物価指数，企業物価指数ともに上昇し，平成５年以降は平成 15 年中頃までの景気の後退局面では，物価指数は緩やかに下落を続けています。平成 16 年頃からは景況感が持ち直し，それに伴い物価指数も上昇を始めました。

しかし，平成 20 年には景気の後退局面にもかかわらず，特に企業物価指数は大きく上昇し，それに伴い消費者物価指数も上昇しています（グラフ○囲み部分）。

図２　平成２年以降平成９年頃までは，物価の上昇とともにきまって支給する給与指数も上昇し，平成 10 年以降は物価も賃金もほぼ横ばいで推移しています。

しかし，平成 19 年後半からは，きまって支給する給与指数が下降したにもかかわらず，反対に物価指数は上昇しています。

図1　広島市消費者物価指数，企業物価指数（全国）
及び日銀短観（DI）の推移

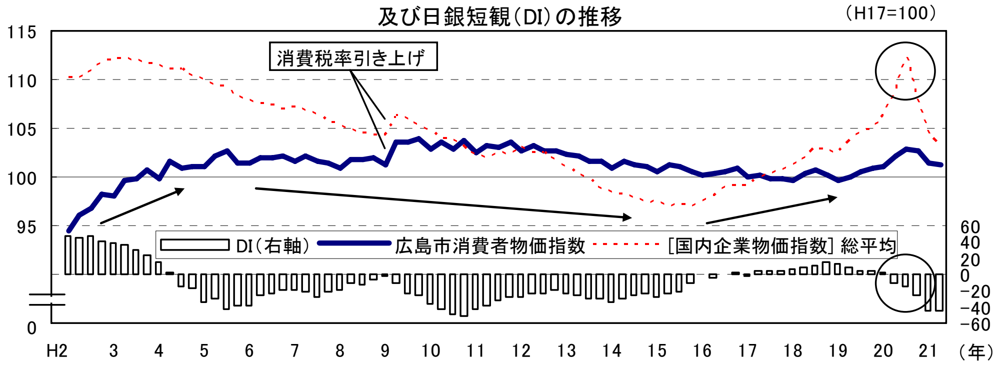
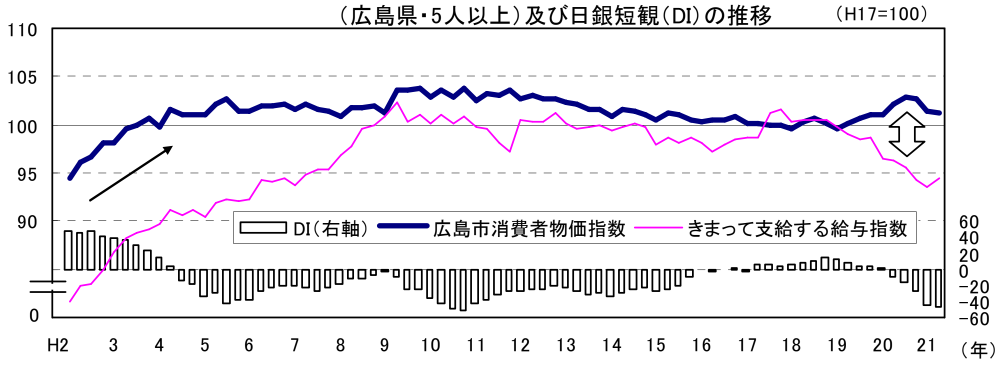


図2　広島市消費者物価指数，きまって支給する給与指数
（広島県・5人以上）及び日銀短観（DI）の推移



これらから，平成 19 年以前については，物価指数の動きが概ね経済動向と連動して推移してきたことが分ります。

しかし，平成 20 年以降の物価動向については，原油などの資源価格が世界的に上昇したために，経済活動が活発でないにもかかわらず企業物価の上昇が起きました。

現在，資源高は一段落しましたが，依然として景況感が悪く，それに伴い物価指数も下落しており，逆にデフレ懸念が強まっています。

今後の物価動向をみるうえでは，上昇・下落の内容もみていく必要があります。